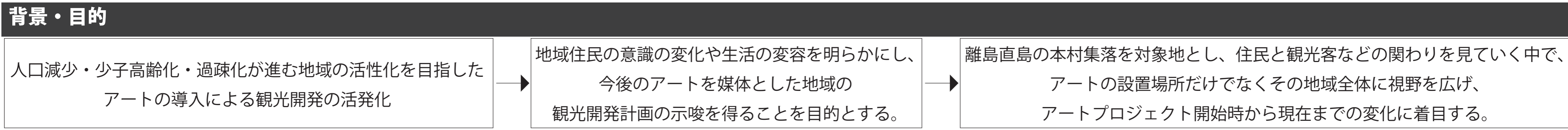


アートの導入による観光開発が住民に及ぼす影響とその要因

～香川県直島の本村集落を事例として～

黒木 桃子 九州大学大学院人間環境学府 黒瀬研究室



直島（島民）と外部資本との関係とその変化

①三菱マテリアルによる精錬所事業（1916～）
雇用創出により島外からの労働者人口増加。島の経済に潤い

②藤田観光による観光事業（1961～1987）
住民の利用が多い
他、岡山方面からの来訪者

③ベネッセによる観光事業（1987～）
観光客増加
近年は外国人も多い

◆ 離島直島は、企業誘致により島外の人と関わりをもってきた。
◆ ベネッセによる事業は人々の生活空間とする中央部にも展開。



アートプロジェクトにともなう観光地化

・本村集落
→ 低層木造住宅が密集する漁村集落で、集落内の住民間の日常的な交流も活発であった。
・家プロジェクト
→ 住民とも交流を意図し、集落内の古民家などを改修または機能を持つある場所に新築。
・他、ANDO MUSEUM
・観光客向けの民宿や飲食店も増加

◆ 生活空間と街路が近接した密集した集落内に、家プロジェクトが展開されている。

本村集落の住民の意識変化・生活の変容

調査方法

手法：年表・統計資料・地図を参考資料に、聞き取り調査
日時：2016年10月11～14日
対象：本村集落に40年以上住む島民36名
内容：今までの集落での生活において変化したことの有無、それは何がきっかけでどう変わったのか（複数回答可）

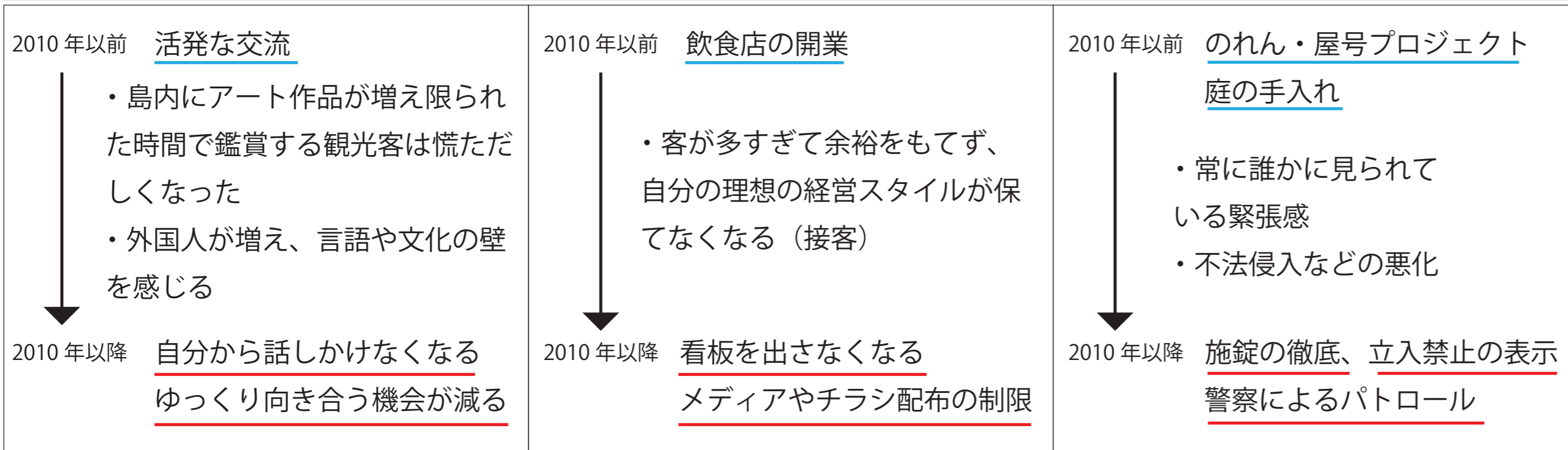
表1 本村集落の生活に変化が生じた時期に関する調査結果

年	出来事	人数	内訳	変化の内容
1953	簡易水道完成	2	2	井戸への水汲みの際の井戸端会議がなくなった
1966	無人島パラダイス開設	2	2	海水浴など、住民も楽しんでいた
1988	家プロジェクト開始（角屋）	11	5	人が増えて賑わうようになった。静けさがなくなった
			2	盗難や不法侵入などの被害が発生
			2	人が増えて混雑するようになった
			1	ゴミやたばこの吸殻が目立つようになった
			1	観光客と交流が生まれた
1999	家プロジェクト（南寺）	1	1	以前の老人ホームや公園での集まりがなくなった
2001	スタンダード展開	2	2	アーティストやボランティアなど若者との交流でアートに関心を持つようになった
2002	家プロジェクト（護王神社）	2	2	以前の護法善神社での集まりなど思い出があったが、今は奥ゆかしさがない
2003	直島観光協会設立	1	1	ボランティアに参加するようになった
2004	地中美術館開館	3	2	人が増えて活気が出た。交流するようになった
			1	車両の交通量が増え、騒音や汚染が気になるように。混雑し、危なくなった
			1	地中美術館目的の観光客が増え、本村に来る人は減った
2006		4	2	ボランティアに参加、飲食店開業
			1	不法侵入
			1	観光客と交流するようになった
2009		6	6	観光客が増えたので、民宿・飲食店を始めた
2010	第1回瀬戸内国際芸術祭	46	8	車の交通量が増えて混雑するようになった。時間帯を見て避けるようになった
			6	家の前の花を手入れしたり、若者と話す機会が増えた
			4	観光客の車やスーツケースの騒音、排気ガスが気になるようになった
			4	観光客によるバス利用が増え、住民の積み残しが発生するようになった
			4	盗難や不法侵入などの被害もあり、玄関の施錠を徹底するようになった
			3	島外から来た人による民宿や飲食店が増え、昔ながらの島の雰囲気が変わった
			3	飲食店できて、観光客向け
			2	外国人観光客が見られるようになり、交流が難しくなった
			2	公園にゴミが散乱したため、ゴミ箱を設置し、毎日処理するようになった
			2	人が増えて道で話さなくなる
			2	飲食店が増えたため、ランチ会をするようになった
			1	国際交流するようになった
			1	人が増えて静けさがなくなって家で落ちつかない
			1	飲食店が増えたため、漁師は儲かるようになった
			1	作品が増え、看板や案内も充実し、村奥まで来る人が減り、交流の機会が減った
			1	人が増えて余裕がなくなり、自分の理想の営業スタイルが保てなくなる
			1	以前のような静かな観光地ではなくなり、観光客とゆっくり話す余裕がなくなった
2013	第2回瀬戸内国際芸術祭	16	8	観光客の大半が外国人で交流は減った
			4	レンタルサイクルが始まり、危険。車で通りにくくなった
			2	ボランティア辞退
			1	国際交流するようになった
			1	店が忙しくなって、自分がやりたい経営スタイルが保てなくなった
2015	直島ホール完成	8	2	直島ホールは観光客向けで斬新。気軽に立ち寄らなくなる
2016	本村港整備	6	6	観光客向けで斬新。

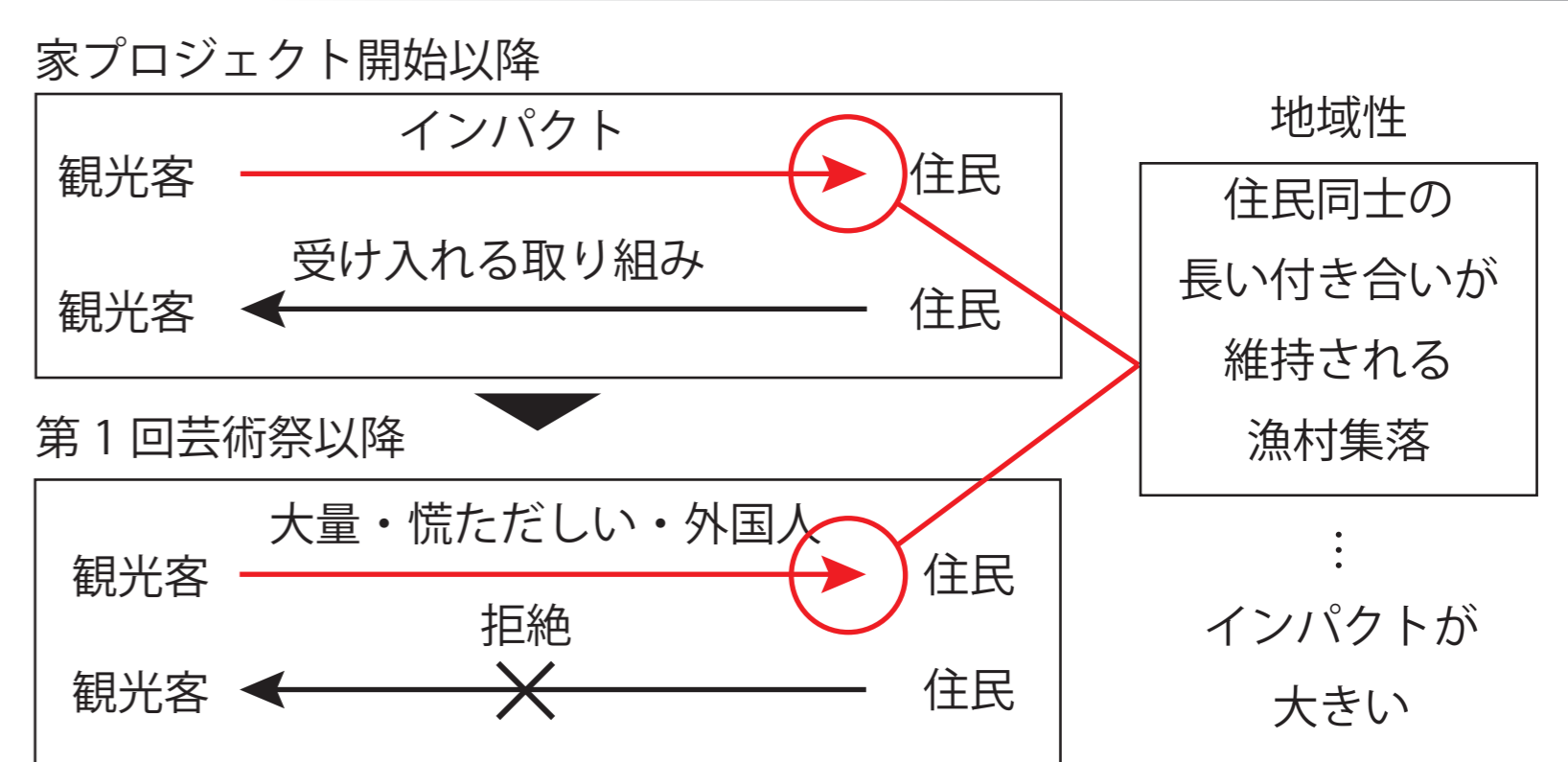
表2 本村集落の生活環境の変化と、変化に対する住民の対応

環境の変化	状況・意識の変化 2000年代	対応 2000年代	状況・意識の変化 2010年以降	対応 2010年以降
護王神社や南寺が観光施設に	古かったので整備が必要だった 奥ゆかしさがなくなった 南寺の横の公園でゲートボールできなくなる	住民の意見を取り入れた 立ち寄りなくなる 南の方に移動		
民生会館や本村港の建て替え			新しく、綺麗になった 観光客向けでデザインが斬新	昔みたいに気軽に立ち寄りなくなる
来島者が増えた	賑わい、活気が出た 商売繁盛	アーティストや観光客と積極的に交流 飲食店や民宿を開業、ボランティア参加。アーティストや観光客と積極的に交流	観光客とゆっくり向き合う余裕がなくなる 自分のやりたい営業スタイルが保てなくなる	メディアや看板の制限、ボランティア辞退 交通整備、時間帯や場所を避ける、家の前や道中で話さなくなる
車やレンタルサイクルが増えた	危険な、通れない	時間帯や場所を避けて通る	騒音、汚染が気になる 危険な、通れない	交通整備、時間帯や場所を避けて通る、注意をする
移住者による店舗が増えた			空き家が利用されること、移住者が増えることは良い 昔ながらの島の雰囲気が変わった	ランチ会で利用、移住者との交流 忠告、警察に相談
作品が増え、看板や案内も充実した			昔ながらの島の雰囲気が変わった 集落の奥まで来る人が減り、交流が減った	
不法侵入や盗難の発生、家を見られるようになった	観光客歓迎 落ち着いた、常に緊張感をもつようになった	積極的に交流、のれん、屋号、花の手入れ 施錠の徹底、裏口の利用	不法侵入が増えた、落ち着かない	パトロール、施錠、立入禁止の表示 パトロール、施錠、立入禁止の表示
ゴミが目立つようになった	吸殻や飲食関係のゴミが増えた	ゴミ箱設置・管理	吸殻や飲食関係のゴミが増えた	ゴミ拾い活動
バスの積み残しが発生			不便に。乗れても快適でない	町営バスを利用しなくなる。 町民専用バスができた。
キャリアやバックパックが増えた			音がうるさい。バックが当たりそうになり危ない	
外国人が増えた			外国人歓迎 言語の壁があり交流機会が減る、カルチャーショック	積極的に国際交流、外国語の案内 自分から話しかけなくなる

変化の具体例の分析



アートプロジェクトの導入とその拡大に伴う住民と客との関係の変化



◆ 住民は観光開発による影響を受け戸惑いながらも、観光客と関わろうとする意欲があった。
◆ 2010年の芸術祭以降、交流する機会の減少、また住民側から拒絶する動きまで見られる。

◆ 変化の要因
・観光客数の過度な増加
・慌ただしい鑑賞者や外国人の割合増加など、観光客の質の変化

まとめ

◆ 地域住民と観光客の交流を意図したアート作品の集落内の設置は、実際に交流を生み出し、集落に活力を与えた。
◆ 観光客の急増と質的变化の結果、集落内部に設置したアート作品が、住民生活に与える悪影響も大きくなってしまった。（集落の外であればこのような状況にはならなかった可能性がある。）

→ 本村の地域性を踏まえた上で、住民の生活と観光との適切なバランスをもう一度検討する必要がある。